

クオリティインディケーター（QI）成果報告

【脳神経内科】

指標名

・入院時塞栓原不明脳塞栓症に対する経食道心エコーの施行率

目標：ゴール

脳梗塞で入院した患者のうち、入院時に塞栓源不明であった脳塞栓症患者に対して、入院中のリスク精査として経食道心エコーを70%以上施行すること。

目標：ゴール達成による効果

塞栓原不明脳塞栓症の患者において、より正確に原因疾患・塞栓源をつきとめることにより、最適の再発予防薬を選択でき、より高い再発予防効果をもたらす。

目標：ゴールに対する成果の状況

目標：70%以上

2023年度 63.3%（入院時塞栓原不明脳塞栓症：49例、うち経食道心エコー施行例：31例）

2024年度 80.1%（入院時塞栓原不明脳塞栓症：68例、うち経食道心エコー施行例：55例）

2025年度 71.9%（入院時塞栓原不明脳塞栓症：57例、うち経食道心エコー施行例：41例）

目標：ゴール達成度

- ☐ S : 大幅な目標を上回った
- ☐ A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☒ A : 目標を達成
- ☐ B⁺ : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

2025年度の施行率は目標値70%を達成したものの、2024年度に比して減少していた。

経食道心エコーを施行しなかった患者の理由としては、食道疾患などの禁忌例のほか、高齢や全身状態不良のため施行がハイリスクだった例、また苦痛を伴う検査のため本人家族の同意が得られなかった例であった。理想的にはすべての塞栓原不明脳塞栓症での施行が推奨されるが、安全性を優先し施行しないことは妥当である。一方で説明不足による不安・恐怖感で検査を拒否された例に関しては、改善の余地があると推測されるため、そのような例に必要性の説明を適切に行い、検査の苦痛を軽減することで改善を目指していく。